

皆様こんにちは。西宮RC平林様、ようこそお越しくださいました。

本日は代理で会長の時間を務めさせていただきます。

不慣れな上、緊張も相まってお聞き苦しくなるかと思いますが、お許しください。

朝野会長はいつも手元の原稿を見るとかなり時間を掛けて沢山の下調べをされている事が感じ取れます。

本来であれば会長の意思を汲みとって同じ様な内容を考えねばならないのですが、私は物事を決定する決断力に乏しく明確な指針が示されない限り、答えが出せない性格ですので、自分流に進めさせていただきます。

ロータリーの出席義務について考えてみました。

私は平成18年12月20日に入会させていただきました。

もうすぐ12年を迎えようとしています。当時から出席に関しては義務でありながらも、強く強制されるものではなくて各々が管理するものと認識しておりました。入会当初は青年会議所の理事長も兼務しておりましたので、昼時に時間を作る事が難しい為、休みがちになっていて概ね50%程度の出席率だったのではないかと思います。

その時に考えていた事は「名前間違わないかなあ?」「テーブルの隣の人は喋り易いかなあ?」「急に何か役割を頼まれたらどうしよう?」などと言った心配事ばかりで例会を楽しむなどと言った気分にはなれませんでした。

ある時例会で瀬川さんが例会出席についてお話しされていたのですが、その内容は覚えていませんが雰囲気と言うか空気がとても印象的で、毅然として例会出席は義務である事を強く訴えかけているのですが、どこか申し訳なさそうな感じが漂っているのです。

大先輩である方がこのような態度を取られているのは、ロータリークラブが自己研鑽では無く自己追求の場だからであり、逆を返せば待っていても誰も手を取って引っ張り上げてくれないシステムなんだと気づきました。いわゆる義務教育と高等教育のような関係でしょうか。

当時は、「将来こんな立ち振る舞いをできる人になりたいなあ」とか「こんな時はこういった形で治めるのか」などと言ったカッコいい方々が沢山おられました。

これは皆様の魅力が衰えた訳ではなく、私の目が肥えて来たことによる錯覚であると信じています。

とりあえず私は将来カッコよく振る舞えるように沢山の物事の流れを目にしておくべきと考えて例会に出席するようにしました。私の場合はこの場ほど洗練された高潔な方々が集う場面は無いと思ったからです。

結局は自分の為で、利己的なお話しになってしまい申し訳ありません。

でも縁あって入会した訳ですから何かしら理由をつけて出席し続けてみる事によって得るものも多いと思います。去年は双眼鏡でした。